

シャッター100年の歩み

1880年~1978年

昭和53年11月20日 発行

社団法人日本シャッター工業会
100年史編修委員会

発刊の辞

社団法人日本シャッター工業会は去る昭和 49 年に創立 10 周年を迎え、記念事業の一環としてシャッター史を編纂し、我が国におけるシャッターの歩みを永く後世に伝えることといたしました。幸に現時点では明治・大正そして戦前の業界事情に通じておられる方々も現存され、これらの方々の積極的な御協力を得て、内容の充実と正確を期し編纂に努め、この度本書が完成いたしましたことは業界にとりまして誠に有意義、かつ欣ばしき次第であります。

御承知の如くシャッターは 19 世紀のはじめ英国で木製のシャッターが作られたのが生い立ちで、その後鉄製となり大いに発達し、日本には明治末期に米国から輸入され、次いで本邦のメーカーで製作されるようになりましてから既に 70 数年の歳月を経たのであります。この間、建築物の近代化、建築法規の整備による防火シャッターの発達、更に戦後開発された軽量シャッターの目覚ましい普及等幾多の変遷を経て今日の業界の発展へと及んだわけでありまして、メーカー数社、従業員数百名に充たない戦前の業界から、全国各地に工場が進出しメーカー百社以上、従業員万を超える現勢を迎え、往時を回想する時誠に今昔の感に堪えません。

「温古知新」の言葉の如くこの小史がシャッター業界の、そして広く我が国建設業界の今後の成長発展の参考資料として、いささかのお役に立ちますよう願って止まぬ次第であります。

おわりに本書の作成に当り、多大な御協力と貴重な資料を執筆提供された各位のご協力を厚く御礼を申し上げますと共に、編纂委員として常に地道な努力を傾注し本書の完成を果された宮川吉也委員長、鈴木喜良委員のお二方に対し改めて謝意を表し発刊の御挨拶といたします。

昭和 53 年 11 月

社団法人日本シャッター工業会
会長 高山 萬 司

復刻版にあたって

本書は、前身の社団法人日本シャッター工業会が昭和 53 年 11 月に A 5 版 (224 頁) で発刊したものです。

すでに発刊から 30 年以上経過し、現在の会員の方は大半がご存じないことから、内容をデータ化し、協会 WEB に掲載することにしました。

シャッターだけでなく鋼製建具黎明期の歴史を知る上で大変貴重な資料であり、ぜひご覧頂きたいと存じます。

平成 21 年 10 月 1 日

社団法人日本シャッター・ドア協会
事務局

目 次

第一章 シャッターのパイオニアたち

- 1 日本最初のシャッター…………… 1
シャッターを初めて見た日本人／鋼製シャッターの登場／明治洋式建築の成り立ち
- 2 国産第一号のシャッター…………… 5
特許第 6183 号／シャッター界の二人の先達／国産シャッター第一号／発明家・大野正／
自動自重降下の防火戸

第二章 草創期のシャッター

- 1 国産化への努力……………12
鈴木富太郎と辰野金吾／建築金物商会時代の田島巷号／大野式特許品合資会社
- 2 大正期の国産シャッター……………15
当時の建築界とシャッター需要／市街地建築物法の公布／第一次大戦による輸入ストップ／
大正期のシャッター・メーカー／関東大震災とシャッター／大正末期のシャッター

第三章 昭和期のシャッター（戦前）

- 1 昭和大不況の中で……………25
日本初の耐火試験／不況期の嵐の中で／特命に活路——大野製作所／鈴木富太郎の死／
それぞれの道
- 2 戦争への足音……………30
白木屋の大火災／建築金物商会，三機工業と代理店契約／シャッター・メーカー各社／
満州の国産シャッター／シャッターの軍需要

第四章 新しいシャッター業界の展開

- 1 廃撞の中のシャッター……………35
修理から始まった戦後／建築資材の統制解除／建築基準法の施行／
明確になった防火戸の規定／戦後復興——ビルブームに沸く
- 2 軽量シャッターの登場……………41
軽便シャッターの時代／軽量メーカー続々誕生／日本シャッター協会設立

第五章 産業化への道を歩むシャッター

- 1 高度経済成長下の建築界……………45
木造の後退／耐火建築の増大／様変りを来たす業界／パーカーライジングの導入／
溶融亜鉛メッキフープ／日本シャッター工業会の設立
- 2 高度経済成長頂点に……………50
上位企業の相次ぐ工場建設／日本シャッター工業会の役割／昭和 40 年代前半／
合併と業務提携／工業会の活発な動き／石油ショックから安定成長へ／
50 年「不況業種」に指定される

100 年史年表

工業会のあゆみ（年表）

原本にはこのほかに、寄稿文，編集後記，会員名簿が掲載されておりますが，割愛させていただきます。